

## 一般財団法人インターネット協会

# 第4回インターネット利用手記を募集中

応募締切:平成 29 年 11 月 30 日(木)

	①インターネット使いこなし部門	
	②インターネットトラブル克服部門	
	③親子のルール作り部門	
	④青少年のインターネット利用部門	

①インターネットを使って友だちや家族とのつながりが深まった②インターネットでトラブルに遭ったけれどこうやって克服した③子どものインターネット利用ルールを作るために奮闘した、④青少年目線で考えたルールや学校でのルール作り等の手記を募集しています。優秀作品を選考しインターネット協会のウェブに掲載します。利用者や関係者の啓発活動の参考にしてもらうことを目的とします。皆さまよりご応募をお待ちしております。

1. 応募対象: インターネットを利用する方ならどなたでも
2. 応募文字: 800~1,200 文字程度、マンガや写真を挿入しても可。
3. 選考結果: 平成 30 年 1 月下旬~2 月上旬発表予定
4. 賞金賞品: 最優秀者4名(賞金5万円、賞品)、他複数名へ賞金・賞品を贈呈

応募したいと思われる方は、

下記の一般財団法人インターネット協会のホームページをご覧ください。

お問い合わせ: 電話 03-5844-6842 大久保、小南、島田

<http://www.iajapan.org/contest/>

① インターネット使いこなし部門

「フェイスタイムに思いを」

余命が近い母のために、息子たちが「フェイスタイム」を通じて、母とアメリカに住む母の姉と繋げていく。楽しいやりとりが想像できる描写が良い。距離を越えて人をつなぐインターネットの素晴らしい活用例で、家族の一生懸命な愛情が伝わってくる手記である。

「ひとりではない」

子どもの頃から、同じ様な病気の状況の人と出逢うことができず「孤独」を感じていた。それが、インターネットで同じような状況の人と出会う。そして女性の筋疾患患者のための会のサイトを立ち上げた。インターネットが人を救って幸せにしている。多くの人の共感を呼ぶことであろう。

② トラブル克服部門 「子育てとインターネット」

バリバリ働きながら二人の子供を育てる筆者。熱を出した息子や仲間はずれにされた娘にできることは何かと検索して、勝手に安堵したり勝手に不安になったり。子どもを想うばかりの母親の心理やネット依存がうまく描かれてる。母親世代には是非お読みいただきたい。コミカルだが一生懸命な微笑ましい家族のやりとりに、尊敬の念を贈りたい。

③ 親子のルール作り部門「成長とともにルールも柔軟に」

音楽プレイヤーからスマートフォンへ切り替えたのは1年半前。高校生になった息子が当初作ったルールの変更交渉をしてきた。ルールは縛るものではなく自主性を育ててくれたと思うと語る。そのためには保護者がインターネットの知識を増やししながら子どもの成長を見守ることが必要だと感じさせる。多くの保護者に参考にしてもらいたい。

④ 青少年のインターネット利用部門

「十年一昔のネット事情」

中学校の教育実習で、筆者は生徒たちに、「SNSは本名で登録しない」、「公開範囲を制限する」と2つの最低限必要なことを話した。ところが、生徒たちから意外なリアクションが返ってきた。中学生にSNSは早すぎると考えていたが、適切な利用法を指導すれば、彼らはそれを守って利用し生活がより充実すると導く。実践を通した子どもたちへの指導が的確に書かれており、生き生きとした子どもたちの姿が浮かんでくる。

「答えはどこにあるの？」

『学びの答えをインターネットに頼らない』というルールを作った。きっかけは、母親から筆者へ向けた助言だった。インターネットの大きな「世界図書館」と、実際の「近くの図書館」を比較し、それぞれの良さを知るために、筆者に実体験させる。子どもに楽しみながら行動をうながす母親の姿勢がとても素晴らしい。多くの家族に参考にしてもらいたい。